

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 22日は、高気圧が日本の東へ移動する。低気圧が九州の西に進み、低気圧から前線が四国沖と東シナ海にのびる。別の低気圧が沿海州付近へ進む。
- 23日は、低気圧が日本の東に進み、前線が日本の南にのびる。気圧の谷が北日本付近を通過する。
- 24日は、低気圧が日本の東で発達し、高気圧が日本海へ移動する。
- 25日は、高気圧が日本の東へ移動する。
- 25日から26日にかけて、前線が本州南岸付近にのびる。

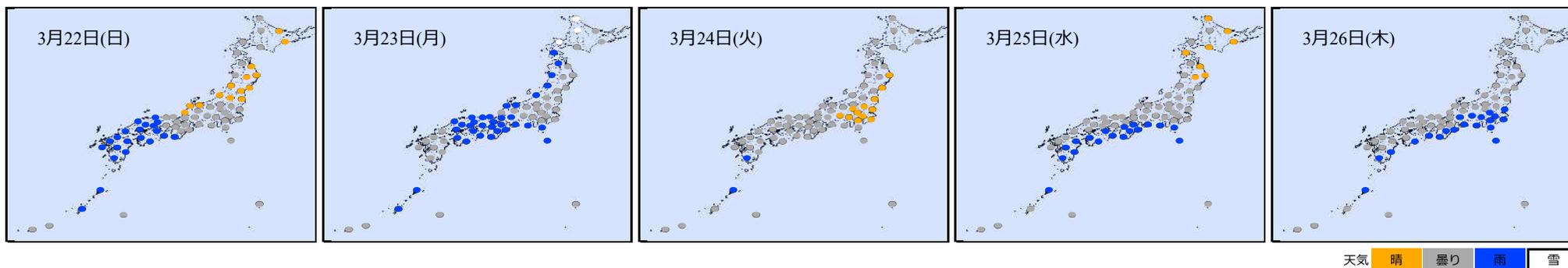
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

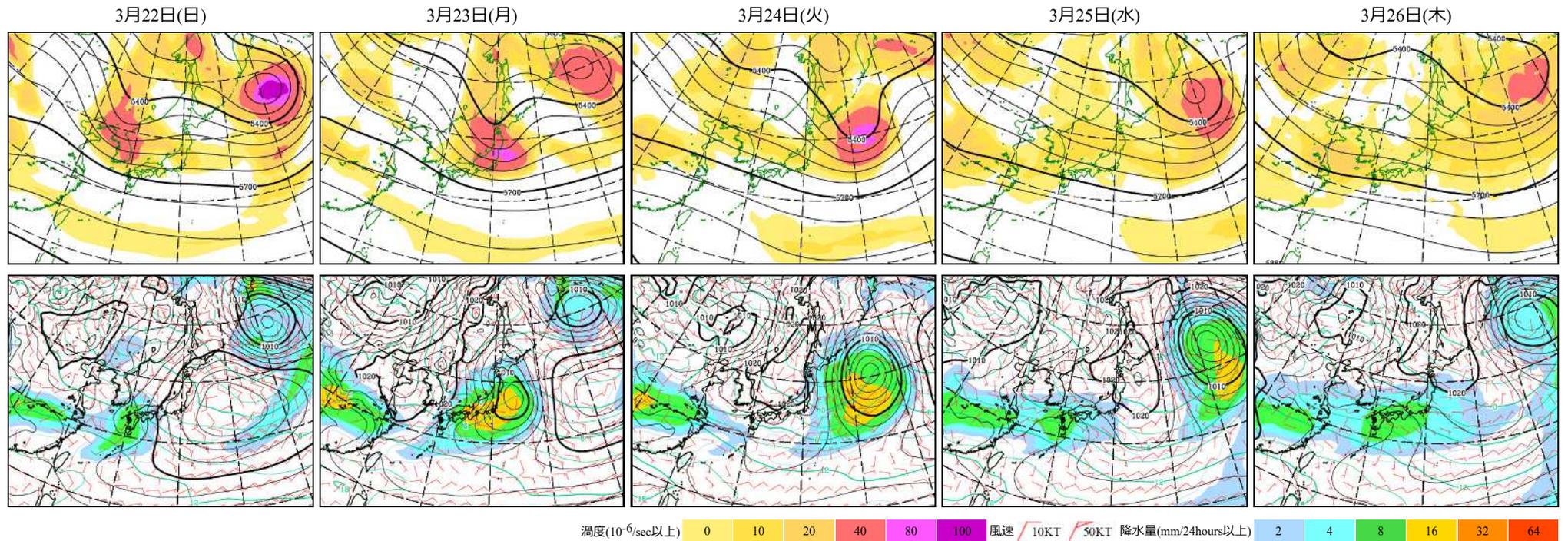
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

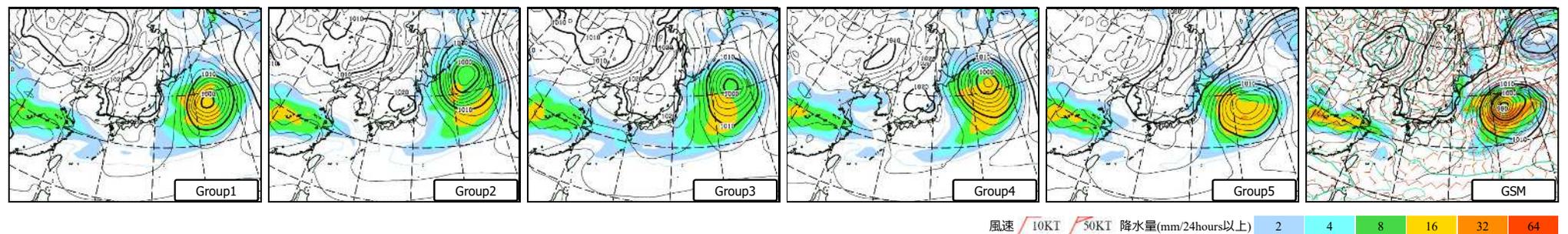


- 北日本と東日本日本海側は、雲が広がりやすく23日は雨または雪の降る所がある。
- 東日本太平洋側は、曇りや雨の降る日が多いが24日は晴れる所がある。
- 西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月24日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、22日は日本の東の高気圧が強まりオホーツク海付近への張り出しも強まった。22日から23日にかけて本州の南岸付近を東進する低気圧が明瞭となり、24日は日本の東で発達する予想となった。このため、22日から23日にかけて東日本と西日本では降水確率ガイダンスの値が大きくなった。
- 低気圧の位置や勢力などにモデル間の差が見られる。
- 期間の終わりはスプレッドが大きくなり、特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。